特集

前向き子育てのコツ 川崎市子ども夢パーク



まちすき ソーイング講師・防災士 石川澄江さん

身近でできるSDGs ふろしき 落ち葉のモビール

こどもと一緒を楽しもう 木の実を探しに行こう



● 編集・発行/ベイ★キッズ編集部[NPO法人シャーロックホームズ] 〒220-0002 横浜市西区南軽井沢18-1-110 TEL.045-324-5033 FAX. 045-548-4514 http://baykids.jp info@baykids.jp *情報提供や広告掲載に関するお問い合わせは上記まで。 * 紙面の無断転載を禁じます。

コロナ禍で危機に直面した大人と子ども



WEB会議システムを使って勉強会形式で取材しました。

新型コロナ感染症の世界的 な流行は、子どもの育ちに 多大な影響を与えていま す。今までは密にふれあう コミュニケーションが大事 とされていたのに急に近づ くな、外で群れて遊ぶな、と

言われ、健やかに育つ権利を制限されてしまったかのようです。また、緊急 事態宣言下で従来学校や園、地域で役割分担してきた子育てがいきなり 保護者だけにのしかかり、親も強いストレスを感じました。その後もお出か け先の制限が続き、家にいると子どもがうるさくてイライラ、静かにさせる ためついついテレビやゲームに子守をさせてまた不安に・・。こんな状況は これからも続きそうです。

どんな状況でも守られるべき子どもの権利は「安心」

1989年に国連総会で採択された「子どもの権利条約」には、「生きる権 利 | 「育つ権利 | 「守られる権利 | 「参加する権利 | という4つの柱がありま すが、その全てが「安心」ということにつながっています。子どもは守られ て育つ環境があってはじめて安心して感情や意見を表明できるもので す。ところが今は先が見えず大人も安心できない状況。子どもは、いつも と違って大人が不安になっている気配を敏感に感じ取っているけれど、 自分の感情を上手に話せない。「遊び」というのは、言葉でうまく伝えら れない子どもたちの自己表現の手段です。東日本大震災のとき、地震・ 津波ごっこをした子どもがいたのは、遊びを通じて困難な状況に向き合 い、自分でコントロールして安心を得ようしている姿だったのです。



IPAの「危機的状況における子どもの遊び」 ガイドとは、

IPA(子どもの遊ぶ権利のための国際協会)は、世界中の紛争地や自然災 害の被災地で専門家が蓄積してきた「子どもが遊ぶことの意味や効果」に ついての知見を今年緊急にとりまとめ「危機的状況における遊び~子ども のくらしに関わる人のためのガイド~」として発行しました。10の項目のど こから読んでもいいので、気になるところを見てください。

IPA 「危機的状況における遊び ~子どものくらしに関わる人のためのガイド~」

日本語版はこちら→



◆お話を伺った方 嶋村仁志さん

1995年、英国Leeds Metropolitan大学ヘルス&ソーシャルケア学部プレイワーク学 科高等教育課程修了。1996年より、羽根木プレーパーク、川崎市子ども夢パークな ど、冒険遊び場のプレーリーダー(プレイワーカー)を歴任し、国内外で冒険遊び場 の立ち上げや子どもの遊びに関わる人の研修や啓発に携わる。2010年TOKYO PLAY設立、代表に就任。IPA 日本支部運営委員。2020年IPA「危機的状況における子 どもの遊び」を翻訳。一男一女の父。



人必

危機的 先行きが不透明 一状況における子どもの遊び な今、どうし たら心健 Ŏ 重 や 要性について専門家に聞きました。 かに親子で過ごせるのか悩んでい



<u>◆家の外で遊べないときの遊び</u>

<u>外で過ごす時間を最大限に活かそ</u>

危機的状況に備えるには気持ちのだっこ

これからも台風なども含め様々な緊急事態が起きる可能性があります。 心の安定をどうしたら保てるでしょうか。

うちの10歳の子は、休校中明るく過ごしていたのに、あるとき急に宿題を 前に涙が止まらなくなりました。習っていない範囲の宿題に向き合うのは 実は相当なストレス。その時「勉強遅れるからがんばれ」と叱咤激励する

のではなく、「そうだよねえ、そりゃあ辛いよ ね。宿題するのはやめよう」と「だっこ」しま した。1日5分でもいいから、ネガティブな感 情を含め気持ちをまるごと受けとめる時間 を持つことが、心の安心に繋がります。

大人だってそう。不安の中で子育てに奮闘し ている親たちにも「気持ちのだっこ」は必要 です。子どもと関わる大人たちを支え応援 するという側面も実はこのガイドにはある のですよ。



子どもの今を受けとめる「受信型」の大人を増やそう



親は、失敗したり遅れたりしないようにと子どものためにあれこれ口を出 しがちです。でも遊びというのは本来子どもが試行錯誤しながら主体的 に創りだしていくもの。コロナで制限されても次々遊ぶ方法を新しく思い つくので、大人は時間や空間など遊べる環境づくりだけを手伝い、あとは 自由に遊ばせる。そして遊んでいる子どもの「今の気持ち」をそのまま受け とめる。そんな大人の「受信型」の関わりこそが、他者との比較からでは得 られない真の自己肯定感を培い、不透明な未来を生き抜いていく力を育 くんでいくのではないでしょうか。